

☒ 話すこと ☐ 書くこと

☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用

☒ 授業での活用
☒ 課外活動での活用

☒ 家庭学習での活用

実践の ポイント

リアルなコミュニケーションを意識した実践的なAI英語アプリ活用と英語力の飛躍的向上

実証概要

<校数>18校(小学校:1校、中学校:15校、高校:2校)
<人数>8,322名(小学校:95名、中学校:7,506名、高校:721名)
<学年>小学校:第5、6学年、中学校:第1、2、3学年、高校:第1、2、3学年
<アプリ等> WorldClassroom(HelloWorld株式会社)
<AI機能について> ①音読練習機能、②プレゼン練習機能(英作文の文法チェック機能も搭載。)③AI英会話練習機能
※ライティング練習機能も年度途中に実装

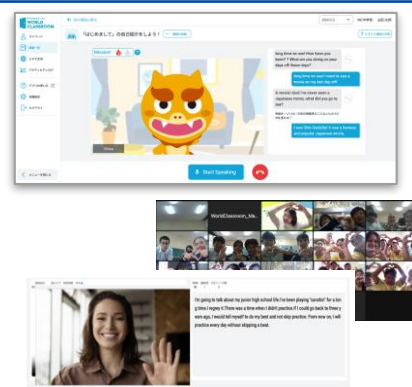
AIの効果的な活用方法や取り組み(小学校・中学校・高等学校の事例)

●AI英会話実践後の中間指導による発話量の飛躍的増加

- ・ 帯学習やペアワークの事前学習において、AIキャラクターとの英会話を実践。
- ・ 会話状況をタイムリーにデータで把握し、教員が発話量増加に向けて「修飾語活用方法やオウム返し方法、理由の付け加え方」等の中間指導を実施した結果、発話量増加やペアワークにおけるボキャブラリー拡充などの事例が複数確認された。

●単元のゴールを意識したAI活用の実践

- ・ 単元のゴールとして「オンライン国際交流」を明確に設定し、その事前準備としてAIキャラクターとの英会話練習やプレゼン練習(表情やジェスチャーの確認を含め)が重要である点を生徒に伝達。
- ・ 生徒はリアルなコミュニケーションを意識することで、モチベーションを高く維持しながら、日々のAIとの練習活動を含めた授業に取り組みめたという声が複数確認された。



実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

【CEFR-J相当レベル(話すこと)】

35.1%の生徒がCEFR-Jレベル向上

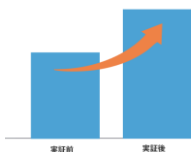
【音読スコア】

約1.5倍アップ

【英会話発話量】

約1.25倍増加

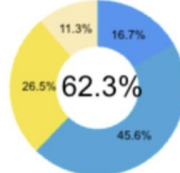
※上記は弊社アプリの診断結果



②児童生徒の関心・意欲の変化

【AI英語学習アプリに取り組んでいる時、自分の英語力が向上していると感じるか】

→60%以上の生徒が
「とてもそう思う」、
「そう思う」と回答



③教師の指導の変化

- ①「教える」から「見守る」へのシフト
すぐに正解を与えるのではなく、必要に応じて生徒にヒントを与えるなど、主体的・自律的な学習を支える存在に変化。
- ②モチベーションの維持と支援
AI活用時にも小さな成功体験が得られる授業設計や、自信を持たせる声かけの重要性を認識したという声が確認された。特に英語が苦手な生徒への「励まし」は必須。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

AI英語活用リーダー同士の学び合いや優良事例の普及を目的としたセミナー・公開授業等、様々な活動を実施

- ・ 教育委員会及びAI英語活用リーダーが共に学ぶ会合セミナー・意見交換会の開催(リーダー教員の実践例紹介等を実施)
- ・ 英語科教員・オンラインMeet-Upの開催(WorldClassroom活用時のポイントや悩みなどを意見交換する場を設定)
- ・ 各自治体における公開授業や報告会の開催(自治体個別で実践の普及に向けて開催)
- ・ 全国の教育委員会向けの報告会を開催(公開セミナーとして、本事業の取組や成果について共有)

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

【成果】

- ・ 児童生徒の英語力に関し、CEFR-J相当レベル(話すこと)や音読スコア、発話量の改善が明らかになった。
- ・ 児童生徒の留学や海外ボランティア意欲や、教師の業務効率化・指導貢献についても改善が明らかになった。

【課題と今後の取り組み】

- ・ 今後の効果的な活用方法の普及に向けては、教育委員会と事業者での二人三脚での活用促進サポート及び教員向けの研修の充実化が重要。次年度以降は活用方法に留まらず、効果的な中間指導方法や声掛け方法等実践的な研修も予定。